

北上市の郊外における買物困難者の現状

平成28年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：「北上市の郊外における買物困難者の現状分析と解消方法について」

研究代表者：総合政策学部 教授 高嶋裕一

課題提案者：北上市商業観光課商業係長 小松幸恵

研究メンバー：なし

キーワード：商業振興、買い物困難者、地域コミュニティ、福祉

▼研究の概要（背景・目標）

北上市は平成25年度に地域商業ビジョンを策定したが、その中で郊外地域の買い物弱者対策が要望されている。本研究では、北上市の郊外地区に注目した買い物弱者の現況を把握することを研究課題として掲げる。買い物困難者は高齢者・障がい者・子育てなど福祉分野が主であり、これまでは福祉サイドでは支援制度などの対策があった。



時刻表のイメージ。表には路線名、駅名、時刻などが記載されている。右下には「ご利用方法」という見出しがあり、利用に関する注意事項が記載されている。

図1「のりたくん」時刻表

▼研究の内容（方法・経過）

1.研究の項目:①北上市地域商業ビジョンに掲げる重点強化エリアの市内8地区(郊外エリア)の買い物困難者の現況把握。②上記エリアにおける商店の有無と利用者の状況聞き取り。③民間業者における買物宅配サービスなど。

2.研究の実施方法・取組み経過：平成28年11月～聞き取り対象者の選定と依頼、12月～4地域での予備的聞き取り(デイサービスへの訪問、個人宅等、商店の確認)、平成29年4月～7月 8地域を対象とした聞き取り調査、8月～10月 研究結果とりまとめ



図2「山の駅わが」

▼研究の成果（結論・考察）

郊外エリアの8地区は、同じ郊外とはいえ、各地区の特性に応じて買い物の状況も発生している問題点の様相も異なっていることが判明した。特に、その地区が平地農業集落などの生産地となっているかどうか（生産地である場合に、買い物の頻度は低下する）、住民の年齢層（高齢者ほど、買い物をそれほど頻繁に行う習慣がない）、世帯の同居人に勤め人がいるかどうか（いる場合には、出退勤の途上で購入）、集落の位置（北上市中心地区に近い集落は中心地に、そうでない場合は、花巻市など近隣に買い物に行く）など、複数の要因が影響する。また、買い物ばかりでなく、病院通院（特に薬の処方など）がより深刻な交通問題を惹起している場合もあった。

各地において、コミュニティ・バスの在り方が関係者の間で関心を強めていた（図1）。地区によっては、新たな買い物施設が整備される状況も見られた（図2）。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

各地区の状況は一律なものではなく、それぞれの地区の実情にあった交通対策が必要になってくるものと思われる。また、そうであるがゆえに、地区交流センター事業など、自治制度の仕組み自体との関係から整理する必要がある。自治制度は自治制度、交通問題は交通問題、買い物と通院は別々、と、縦割りに考えるかぎり問題は解決されないであろう。

調査実施にあたり、北上市商業観光課、同長寿介護課・福祉課等関係者のみなさまに感謝申し上げます。